

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690300037
法人名	社会福祉法人 愛心会
事業所名	グループホーム青空
所在地	徳島県小松島市中田町新開52番地
自己評価作成日	令和4年12月18日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	令和5年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは立地条件に恵まれた地域にあり、スーパーやホームセンター、ドラッグストア等も近くにあり、また協力病院も隣接しており、赤十字病院もすぐ近くにあり医療的環境にも恵まれています。四季を感じれる様に季節に合わせた行事等も行っていきます。コロナ禍で十分な外出は出来ていないが、近くの港や日の峰にドライブに職員と行ったり、近くの遊歩道と一緒に散歩に行く機会を見つけて行っています。事業所内の研修や外部の研修にも積極的に行き、認知症のケアや技術、知識、感染症等に関する知識を身につけてもらいケアの質の向上に取り組んでいる。コロナ禍前は、ボランティアや、社会人、近くの高校の福祉科の学生等の実習を積極的に受け入れて認知症について学び、理解を深めてもらっていたので、感染状況をみながら、少しずつ以前の様に戻していく予定です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、幹線道路に面した、町中に位置している。敷地内に、法人本部や他サービス事業所とともに、母体となる協力医療機関も併設し、医療面において、利用者や家族等の安心・安全に繋がっている。個別の希望に応じて、関係機関と連携を図り、看取り支援も行っている。“安心 安全 尊厳を大切にします”、“充実した生活が地域の人と共に出来るよう支援します”という理念のもと、家庭的な雰囲気なかで、利用者一人ひとりの心身状況を踏まえた、きめ細やかな支援を心掛けている。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、外出等が難しいなかでも、個別の希望を確認し、お墓参りや近くの港までドライブに出かけるなど、意向にそった外出支援に努めている。また、食事に関しても、テイクアウトを活用したり、おやつを手作りしたりして、生活上の楽しみに繋ぐことができるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	具体的な理念と目標を掲げ、各ユニットのスタッフルームに掲示し、日々のケアの振り返りを行い支援の在り方が反映されているか話し合いを行うようにしている。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた、独自の理念を掲げている。理念は事業所内に掲示し、職員間での周知・理解を図っている。新規職員等にも、理念について説明し、日ごろの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前は地域のボランティアの方の訪問や地域のイベントに積極的に参加していたが、新型コロナウイルスの影響もあり、行事に参加出来ていないが感染状況をみて、感染対策を行ったうえで交流していきたい。	事業所では、近隣保育所や小学校等と交流するなど、日常的に交流している。感染症(コロナ等)の流行下においては、安全面に配慮しつつ、地域のイベントに利用者に参加したり、地元高校の実習生を受け入れたりして、交流の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームにいらした見学者や入居希望の家族との対話の際、日々の困難に対しての相談をうけられるよう努力している。そのために職員それぞれが力をつけていくため日々努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、関係者に集まっていたが、定期的に運営推進会議を行っていたが、コロナウイルス感染予防のため、文書による報告と、アンケート結果を書面にて開示し意見等を聞き運営に活かす様努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。現在は、感染症の流行に伴い、各委員へ書面を送付し、電話等で意見をj得ている。出された意見等は、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営に関すること、介護保険に関することや疑問や家族からの相談があると、市の担当者に電話や直接出向いて相談している。運営推進会議は書面にて報告している。	職員は、定期的に市の担当窓口を訪問し、事業所や利用者の状況等について報告している。感染症の流行下においても、助成金等制度に関する情報提供を受けるなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行い身体拘束について話し合い検討し職員の知識、理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所では、3か月に1回、身体拘束に関する勉強会を開催し、拘束の内容や弊害等について、職員間での周知・徹底を図っている。日中は、玄関やベランダを開放し、利用者が自由に行き来できるなど、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で資料を用いて勉強会をし虐待防止についての理解を深めている。汚れた衣類そのままをしておくなど日常においても虐待と思われることが見逃ごされることがないように話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について冊子を用いて理解を深めるようにしている。後見人が必要とされる方があれば地域包括センターに相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書類に沿ってサービス内容、個人情報の取り扱い等の説明を行い納得してもらえよう努めている。説明時に不明や疑問点がないかお聞き確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。利用料の支払いなどで要望を聞く機会設けている。月1回青空通信でホームで行ったことをお知らせしている。	事業所では、日ごろの支援のなかで、利用者の意見や要望等を聞き取っている。家族等については、定期的に電話をかけた後、面会等で来訪したりした際に、意見等を確認している。出された意見等について、職員間で協議し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス以外の時でも日々の仕事の中で意見や提案があればその都度話し合い、現場で反映させサービスの向上に努めている。気づきノートを活用している。	管理者は、日ごろの支援のなかで、職員から意見や提案等を聞き取っている。ミーティング等の機会以外に、気づきノートを活用するなど、職員が意見等を出しやすい環境づくりに努めている。出された意見等は運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の状態や職員の勤務状況に合わせて研修に参加できる機会を設けている。自己評価を実施して個々の成果達成で報われる体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のケアの質や力量を把握することに努め外部の研修に参加できる機会を設けている。研修後は、報告書を書いてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で減ってはいるが、外部の研修により交流する機会がある。最近リモートでの研修の開催ではあるが、積極的に交流の機会を作りサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報提供の内容からうかがえる本人の生活習慣や生活リズムが継続できるよう不安なく安心につながるよう努めている。入居されてからは、日々の詳細な様子を見落とさないように職員間での情報の共有に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の抱えている問題や不安なこと、要望に耳を傾け、ホームでできる事や対応を説明したうえで共に考え話し合いながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のやりたい事や必要な支援を見極めて本人と家族にとって穏やかに生活できるような支援ができるよう職員間で話し合い対応してゆく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者に「～してあげる」という気持ちではなく利用者と一緒にすることによって、共に学び、尊重し合い、支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方には、本人の生活の様子を伝えながら、本人と家族の絆を大切にしながらご家族様と本人を支えていく関係に作り込みに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで本人が歩んできた生活を尊重し、慣れ親しんだ物を大切にしている。現在はコロナの影響で馴染みの場所や人と会う機会は減っているもののオンライン面会や窓越しの面会、電話で関係が継続できるよう取り組んでいます。	事業所では、利用者の馴染みの人や場所との関係継続支援に取り組んでいる。感染症の流行下においても、安全面に配慮しつつ、面会を実施し、関係継続に努めている。また、一人ひとりの希望を聞き取り、近隣の散歩やドライブに出かけるなど、個別支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が、親しく交流できるように、利用者同士の相性、力量を見極め職員が間に入って支援している。それぞれの利用者ができる事を支え合いながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族からの相談を受けたり、必要に応じて受け入れ先をさがすなどの支援に努めています。契約終了後もご家族様から手紙をいただくこともあり、今後の支援、関りに活かしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動、言動、表情などから、今の思いを知るように日々の関わりを行っています。困難な場合は、現在の様子、これまでの様子などから本人の視点に立って意見を出し合い、思いや意向の把握に努めている。	職員は、担当制を導入し、利用者一人ひとりのニーズを把握するよう努めている。意思の表出が困難な場合は、会話内容や表情、家族等から生活歴を確認するなどして、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、本人との会話の中から、これまでの暮らし方、生活環境を把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、介護記録、申し送り等で職員間の情報の共有をし日々の変化に気づけるように努めています。また気づきノートも活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士で話し合い現状に応じた支援を行っている。情報共有ノートを活用しモニタリングを行い、今の思い状況を把握しケアプランに反映させている。	事業所では、気付きノートを活用しつつ、利用者や家族等の意向を踏まえた介護計画を作成している。3か月に1回、計画を見直すとともに、随時、利用者の状況に応じた見直しも行き、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいたことや工夫したことを業務日誌、介護記録、カンファレンスノート等に記入し、支援内容の検討、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状の把握に努め、その時々々のニーズに対応した柔軟なサービスが提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事や催し物など積極的に参加していたがコロナ禍にともない以前のように参加できないが地域資源の情報の収集に努め、参加できるようになれば積極的に参加できるよう支援してゆく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前のかかりつけ医から協力病院をかかりつけ医にするときは、本人、家族の同意を得て納得してもらったうえで変更してもらっている。	事業所では、入所時に、利用者一人ひとりのかかりつけ医の確認を行っている。かかりつけ医を受診する際は、職員が送迎し、付きそっている。毎週、協力医療機関からの往診があり、適切な医療受診ができるよう支援に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化を看護師に相談しながら、支援をしている。往診時に適切な情報を医師に報告できるよう話し合いをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供を行い病院スタッフとの良好な関係作りに努め入院中の経過を把握し、退院後の生活が本人や家族にとって安心してホームに帰って来られるよう病院と連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族さんに早い段階で説明を行い出来る事を十分に説明しながら方針を共有し支援に取り組んでいる。看取りの場合は訪問看護を利用している。	事業所では、入所時の段階で、重度化や終末期の指針について、利用者や家族等に説明し、意向を確認している。利用者の心身状況の変化に応じて、再度、意向を確認しつつ、協力医療機関等と連携を図り、チームで支援に取り組んでいる。また、希望に応じて、訪問看護と連携し、看取り支援も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを周知してもらえよう目のつきやすいところに掲示している。定期的に防災訓練を行い実践力を身につけている。人形をモデルにしたAEDの訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者さん参加で災害時の訓練をしてもらっている。隣接する協力病院やケアハウスと連携できるようにしている。食料、飲料水、明り、紙おむつ等の備蓄を確保し、定期的に見直しを行っている。	事業所では、年2回、日中・夜間における地震や火災、津波等を想定した避難訓練を実施している。利用者等の参加を得つつ、消火訓練等を行っている。また、備蓄品も整備し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切に自身の家族に立場を置き換え、温かく安心できる対応を心掛けている。トイレの声かけは自尊心を傷つけないようその人の立場に立って対応するよう心掛けている。	職員は、利用者の尊厳を損ねることのないよう、丁寧な言葉かけに努めている。入浴やトイレ介助の際に、同性介助を心がけ、一人ひとりがその人らしく過ごすことができるよう支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができる方には本人の希望を尊重し自己決定できるように働きかけ、困難な方には普段の会話や行動、表情、ご家族からの情報をもとに個々のニーズに応じた支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	予定の行事はあるが、その日の様子や、気持ちに沿って本人と相談し希望に沿って支援している。天候や広報と一緒に見て相談しドライブや近所に散歩に行かれている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍であり、馴染みの美容院には行っていないが、職員によるカットを定期的に行っている。また希望のある入居者には職員が毛染めをおこなっている。服選びに関しては、色合い、柄などを合わせおしゃれ出来る様選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを日常の会話から聞いて献立に取り入れるようにしている。旬の食材を使い季節を感じられるような献立を工夫している。簡単な下ごしらえを手伝ってもらったり、味見をしてもらい食事の時間を楽しくもらえるよう工夫している。	食事は、利用者の好みを取り入れつつ、職員が立てた献立をもとに調理している。感染症の流行下においては、テイクアウトを活用したり、誕生日にケーキを手作りしたりして、食事を楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ゆっくりたべてもらえる環境作りをおこなっている。食後にゼリー、フルーツ、食間に牛乳、嗜好飲料、おやつを提供し栄養と水分補給をおこなっている。食形態は、個々の嚥下状態に配慮してとろみつけ、刻み食などで提供し工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを実施している。自立で行っている人も舌の汚れなどがいないか声かけ確認している。また舌ブラシを使ってもらい清潔に保てるようにしてもらえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄時チェック表に記載、排泄の間隔など個々のパターンを周知し、一人ひとりのサインやタイミングを見計らって誘導している。例えば失敗があっても気にしないよう声かけし、前向きにとらえることで自信と自立に繋げている。	事業所では、排泄チェック表を用いて、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。把握した情報をもとに、ポータブルトイレ等を活用し、できる限りトイレで排泄することができるよう、個別支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な水分補給に努めている。お茶が苦手な方には甘みをつけたり嗜好飲料を飲んでもらったりと工夫している。また排便チェック表で個々の状態を把握、下剤の調整に頼るだけでなく水分量などの工夫をおこない個々に合わせた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者さんの体調(バイタル測定)を確認しゆっくり入りたい方、ぬるめのお湯が好きな方など個々に対応している。拒否される方には無理強いをせず、時間をあけて声をかけるなどして気持ち良く入浴できるよう個々に沿った支援をおこなっている。	事業所では、週3回は入浴できるよう支援している。利用者の希望に応じて、シャンプーや化粧水などについて、好みのものを持ち込んでもらっている。また、入浴剤やゆず湯等、季節に応じた取り組みを実施するなど、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ち良く眠れるように室温や照明の調節などをして環境に配慮している。また日中の過ごし方など睡眠を妨げている背景について申し送りや記録にて職員間で共有をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報をいつでも見られるようにホールに置いている。服薬内容に変更があった場合は職員に申し送り体調などの変化に気づけるようにしている。服薬の前には、必ず確認し、服薬後にはチェック表にサインしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日々の会話の中で経験を生かすことができること、したいことの思いを話合っている。洗濯物、料理の味見、簡単な下ごしらえと一緒に実践し、役割から自信が持て楽しいと思っただけの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により限られた外出となっているが、本人の希望や体調、気候に応じてドライブ、散歩、自宅への立ち寄りなどの支援をしている。	事業所では、気候のよい日には、近隣を散歩するなど、日常的な外出支援を行っている。感染症の流行下においても、利用者一人ひとりの希望を伺いつつ、個別にドライブするなど、出かける機会を設けている。また、少人数で喫茶店や季節の花の見学等に出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で限られているが、近所の喫茶店に行かれてお金を支払われている。また少量のお金を自分で持たれている方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方がおりいつでも会話を楽しんでおられる。また希望があれば職員がかわりに電話をかけお話できるように手助けしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、室温、光などを調節している。ホールには季節感を取り入れたものや、植物が置いてあり居心地よく過ごせるよう工夫している。また入居者さん同士の関係性をみて座席の変更を行っている。	共用空間は、温度や採光に配慮している。壁面は、四季の花や利用者の作品を飾るなど、季節を感じることができるようにしている。また、ソファを設置するなど、利用者が居心地よく過ごすことができる環境整備に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士で、リビングで過ごしたり、一人で静かにテレビを見たい方には環境を整える配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ昔から使い慣れた寝具、家具、アルバム等を持ってきてもらい居心地良く安心して生活できるように支援している。	居室には、利用者一人ひとりが使い慣れた家具や寝具などを持ち込んでもらっている。安全面に配慮しつつ、家具等を配置し、自宅に近い環境で、安心して過ごすことができるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名札を設け、居室が分かるように工夫している。またトイレに看板を貼るなどし、迷わずトイレに行けるよう工夫している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	具体的な理念と目標を掲げ、各ユニットのスタッフルームに提示し、日々のケアの振り返りを行い支援の在り方が反映されているか話し合いを行う様になっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍は、地域のボランティアの方の訪問や地域のイベントの参加を積極的にしていたが、新型コロナウイルスの影響もあり、行事の中止や参加が出来ていない。感染状況を見て、感染対策を行った上で交流をしていきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの感染状況を見て、高校生、社会人の実習を受け入れ認知症について理解を深めてもらっている。コロナ禍前の様に状況を見て、地域のイベントの参加を通じグループホーム・認知症に対する理解を深めて頂く。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響で運営推進会議の開催は行われていないが、2カ月に一度事業所の運営状況やサービスの取り組みの報告、評価やアンケート結果を書面にて開示し意見等を聞き運営に活かすように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営に関する事、介護保険に関する事や疑問、家族からの相談があると、市の担当者に電話や直接出向いて相談している。運営推進会議は書面にて報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修を行い職員の知識、理解を深めている。職員同士でしっかりと話し合い抑制しないケアに取り組んでいる。協議を重ねていく事で現時点では抑制しないケアが出来ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の支援の中で、身体的虐待や虐待につながる不適切ケアや言葉がないか、職員同士で議論し、適切な介助方法や対応を話し合ったり、意見交換や勉強会を行い意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の冊子を用いて理解を深める様にしている。外部の研修にも参加している。後見人が必要とされる方があれば、包括支援センターに等に相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書類に添って細やかな説明を行っている。説明時に不明点や疑問点が無いか確認し対応している。随時、ご家族からの問い合わせには対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の要望等を聞く機会を面会時や利用料支払い時、電話連絡時に設けている。利用者の要望なども普段からお聞きする様にしている。意見、要望があれば、その都度協議し話し合い出来る体制を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス以外の時でも、職員の要望や意見、提案などがあれば、その都度話し合い、反映させてサービス向上に努めている。気づきノートを活用している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場に来ており、勤務状態の把握に努めている。個々の資格取得等の実績を把握しており、給料等に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部や外部の研修にも出来る限り参加している。新型コロナの影響もあり、外部のオンライン研修に参加し参加した職員より研修報告を行い研修の共有を行っている。エルダーメンター制度への取り組みも検討していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で以前程積極的に行えないが、他グループホームの管理者と運営推進会議の書面や電話等での情報や意見交換を行い相互にサービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅や施設等に訪問し本人やご家族、関係者との情報交換を密に行い生活の留意点を把握し、入居時の不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの開始前、開始時家族の思いや要望等聞き、ご家族の希望、本人の意向、生活歴、思考、趣味嗜好等を把握した上でプランに反映している。入居後も機会を作り、要望等がないか聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の状況や思いを確認し、本人の意向を把握した上で、本人にとってどのような支援が必要か、見極めてサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、出来事等に共感、共有し馴染みの関係を築き、家庭的な雰囲気作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月青空通信等で日々の暮らしの様子をお知らせしている。又、その都度何かあれば報告し情報の共有に努め、本人と共に協力し支えてケアをしていく関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍前の様に馴染みの美容師さんに来てもらったり馴染みのお店や場所に行けていないが、これまでの趣味、嗜好等本人、ご家族等からヒアリングを行い職員間でしっかり情報の共有を行い、支援に活かせる様に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の人間関係を把握し職員間で情報交換と共有を行い生活空間の中で利用者さん同士が楽しく過ごせる様に関係が良くなるように、職員が調整役になって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時や退院後もご家族の相談や支援に関わりフォローしている。退去後も家族の相談等に乗っている。他事業所に移る時は情報共有を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で一人一人の思いや意向をお聞きし、把握に努め職員との共有の中で、本人の思いを汲み取ったり、家族からの情報を得て本人本位のサービスに繋げられる様に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントをしっかり行い、家族等からも聞き取りをする事で利用者の情報を収集し職員間で共有し、本人の習慣や特徴を活かした支援を行える様、普段の生活からも本人を理解し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態をケア記録に記載し職員間で情報共有し利用者個々の生活リズムを把握、本人の不利益にならない様に残存能力、得意不得意を見極め現状把握に努める様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との日頃からの関わりの中で意見、要望等を聞き、職員の意見も聴取し職員間の話し合いの中でどのような支援が必要か、検討し介護計画の作成に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録で本人の状態が一目でわかる様にしている。日誌、ケア記録は日常の様子が分かる様に記載し、情報共有が出来る様に気づきノートの活用で、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭的な雰囲気作りを大切に、入居者や家族が気兼ねなく何でも話せる雰囲気作りを心がけている。状況に応じて施設として出来る限りのサービスを心がけ、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、地域のボランティアや介護相談員、傾聴ボランティアの訪問が出来ていないが、感染状況を見て、以前のように地域の資源との協働をしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医から協力病院の医師をかかりつけ医に変更する時は本人や家族の同意を得て納得して頂いている。本人の不利益にならない様にしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1, 2回看護師による訪問看護あり。入居者さんの状況を報告、相談などしている。体調不良時には、速やかに病院受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーなどでの情報共有や、不足や追加等の情報は電話等で説明している。入院中は経過等を伺い状況把握をし、退院後の生活もスムーズに戻る様に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合やターミナルケアについては、入居時の契約時に事業所の対応についても説明している。家族の意向や気持ちを確認し、方針を決定し、必要であれば、訪問看護も利用している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	人形をモデルとしたAEDの救急救命の訓練も行っている。事故発生時や急変時に備えてマニュアル作成を行っているが、職員全員に周知してもらえる様定期的な確認を積極的に行っていく事が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時隣接する協力病院やケアハウスと連携が出来る体制を構築している。利用者参加で昼夜を想定し、訓練を実施している。ご家族等を含めた合同訓練はコロナ禍で出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時に羞恥心に十分配慮した対応を心掛けている。一人一人の個々を尊重し、プライバシーを損ねずプライドを傷つけない様に声掛けや対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の何気ない会話や訴え等の中から、本人の思いや希望を汲み取り、少しでも実現出来る様に努めている。意思表示等が困難な方の場合は表情や反応を見て思いを汲み取れる様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的な雰囲気作りを大切にし、個々の生活リズムやペースを大切にし、本人の希望や想いに添える事が出来る様な支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や髪の設定を出来る方には自身でして頂いている。服も本人に選んで頂いている。毛染め希望の方は入浴前に職員が染めたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいメニューや嗜好を普段の会話等からもお聞きし献立に取り入れている。旬の食材を積極的に使用したり、季節の行事に合ったメニューも取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、水分量をチェックし把握している。個々の状態に合わせた食事形態や分量にしている。普段より食事量が少ない時は、本人の好きな食べ物、飲料やゼリー等で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや見守りで口腔ケアも行って頂いているが、個々の状態に応じて職員が介助を行っている。舌苔にも注意してブラシやスポンジブラシで磨いている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンの把握に努め、さりげなく無理のない誘導を行っている。誘導以外にも個々の尿意便意のサインに気づきが持てる様になっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表で排便の確認を行い、主治医指示の元緩下剤等の服用を行っている。水分摂取や運動も普段から意識して行い食事にも注意して腸活にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は本人の体調や状況に応じて臨機応変に対応しているが、週に2回実施している。個々の状況にも対応し体調や能力に応じてシャワー浴、足浴、かけ湯、清拭で対応したり、湯加減も個々に合わせている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やリズムに合わせて、日中での休息を取り入れたり、室温や照明の調節を行い安眠されやすい環境作りの支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方薬を確認し、薬剤の情報も職員が目につく所に置いている。症状の把握にも努め、状況により受診や主治医の指示の元対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や能力を活かして洗濯物干しや洗濯物、おしぼり畳みをして頂いたり活躍される場を作っている。お手伝い後は感謝の気持ちを伝えている。塗り絵、簡単なゲームや季節毎の行事を行ったり色々な活動に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍もあり希望に沿った外出は出来ないが、感染対策を行いドライブや近所の遊歩道の散策等、出来る外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で買い物は感染予防の為出来ていない。手元にお金がないと不安な方はご家族の了承を得て、ご自身で少しお金を持たれている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と話されたい方には、職員が電話を掛けお話し出来る様にしている。利用者の様子により、電話でのお話の機会を提案する場合もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでは四季の季節感を感じてもらえる様に、お雛様や5月人形、七夕飾りやクリスマスツリー、お正月には門松等の飾りやレイアウトをしている。トイレは分かりやすく張り紙をしたり、危険物等がないように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のペースで本人の生活リズムをなるべく優先し、好きな時に休息や居室や共用スペース等好きな場所で過ごして頂いている。気の合う利用者さん同士でお話されたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物や愛用品や家具等を持参して頂いている。ご家族のお写真や置物を飾ったり、寝具も自宅で使っていたのを使用されている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、廊下、トイレ、浴室などの段差もなく、手すり設置しており安全面に配慮した環境を整えており。車椅子自走や歩行器や、シルバーカー等も使用しやすいので自立で移動も出来やすい環境である。		